

日本老年医学会認定「老人保健施設管理認定医」症例報告書

記載者:老健施設名: 老人保健施設 野崎の里

氏名: 老年 一郎

印

症例要約:

入所中に認知症リハビリテーションを行い在宅復帰した一例

利用者情報:

- 利用者ID: 0123456 ●利用者年齢: 75歳 ●利用者性別: 男・**女**
- 老健施設名: 老人保健施設 野崎の里
- 入所日: 2017年5月1日 ●退所日: 2017年8月20日
- 転帰: 在宅復帰後通所リハビリテーションを利用

診断名: 1. レビー小体型認知症 2. パーキンソン病 3. 大腿骨骨折術後

病歴:

70歳頃よりパーキンソン病と言われて内服治療開始された。73歳頃より、夜間に大声をあげ、誰かが襲ってくるなどと興奮して外に出てしまうことがあった。主介護者である次男が外出すると、不安ですぐ呼び出すことが続いた。75歳転倒し、大腿骨骨折し置換術を施行した。その後回復期リハ病床に入院するが、入院期間中も幻視などが続いており、レビー小体型認知症と診断した。

入所目的:

認知症およびADL低下に対しリハビリテーションを実施し、在宅復帰する目的で入所した。

入所後経過:

大腿骨骨折に対するリハビリを継続し、歩行器歩行は可能になった。しかし、在宅では伝い歩きが必要なので、伝い歩き獲得のためのリハビリテーションを行った。入所中も幻視などが出現し、興奮することがあり、ドネペジルを追加し、認知症に対する短期集中リハビリテーションを実施したところ、幻視は軽減した。パーキンソン病に対してはL-Dopa300mg分3の他エクセグラン25mg分1にて、筋の硬直や歩行の改善が見られた。なお、在宅復帰にあたっては、主介護者である長男夫婦に対して、レビー小体型認知症の特徴や対処法について、多職種で介入した。また当施設のデイケアを継続することで、機能維持や趣味活動の維持ができるように配慮したことで、現在も在宅生活を継続している。

治療内容:

L-Dopa 合剤 300 mg分3
エクセグラン 25mg 分1 朝食後
ドネペジル塩酸塩 10 mg 朝食後

考察:

レビー小体型病に特徴的な幻視や妄想がみられ、入所中に、リハビリテーションおよびドネペジルの追加により症状の改善が見られた。レビー小体型認知症に適切なリハを行ったことで、症状が改善し在宅復帰が可能であったと考えた。